鈴鹿のレガシー遺産
～写真でみる80年～
その5

1942（昭和17）年12月1日に誕生し、今年で市制施行80周年を迎える鈴鹿市。80周年にちなみ、このコーナーでは本市の発展を振り返ります。

鈴鹿サーキット

市制施行80周年を迎える本年、日本初の国際レーシングコースである「鈴鹿サーキット」も開場60周年を迎えています。

鈴鹿サーキットは、広く自動車産業発展に貢献し、世界に誇る日本の車づくりにおいて、大きな役割を担ってきました。

私たちの住むまちSUZUKAが「モータースポーツのまち」として世界に知られているのは、鈴鹿サーキットを抜きに語ることはできないでしょう。

▲建設中の最終コーナー

▲建設中のメインストレート

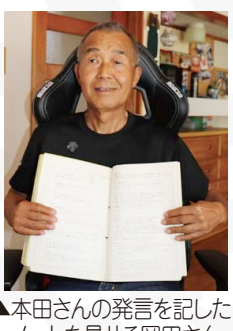
▲完成した鈴鹿サーキット

▲世界選手権　第２回日本グランプリ
ロードレース

▲サーキットへ向かう長い車列
（サーキット道路）

モータースポーツお宝探検隊　vol.17

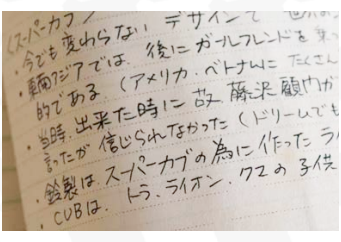
モビリティランド元社員で、鈴鹿サーキットやツインリンクもてぎでの勤務経験を持つ岡田武志（おかだたけし）さん（66歳 郡山町）。そのキャリアの中で忘れられない思い出は、1990年2月、本田宗一郎（ほんだそういちろう）さんがホンダの歴史的車両を集めた「ホンダコレクションホール準備室（当時は鈴鹿サーキット内）」を訪問した際に受け入れを担当したことです。



▲本田さんの発言を記したノートを見せる岡田さん

前年にアジア人として初めて、アメリカの「自動車殿堂」入りを果たした本田さん。その快挙を記念して制作されるビデオの取材のためでした。

スーパーカブからF1まで、自ら手がけた歴代のホンダ車を前に、苦労話や想いを熱っぽく語った本田さん。傍らで岡田さんは、一言も聞きもらすまいと必死でノートに書き留めたのでした。そのメモはホンダ本社に送られ、前述のビデオに反映されるとともに、偉大な創業者自身が発した貴重な証言として、ホンダの歴史に刻まれています。



▲メモの一部　「スーパーカブ」に関する記載

■中野能成（なかのよししげ）（鈴鹿モータースポーツ友の会　事務局）

キーボード

先日、年長になった娘の運動会に行き、かけっこや鼓隊などの演目を観覧しました。中でもダンスでは、少しタイミングがずれながらも、誰にも負けないとびきりの笑顔で踊る娘の姿がありました。

何もできなかった娘が、親の知らないところで、先生や友達に支えられながら「こんなにも大きく成長していたんだな」と感動。思わず涙が込み上げてきました。

今回、特集の編集を通じて、わが子に対しての自分の言動を見つめ直す良いきっかけになりました。思い返すと、子どもの先回りをして、手と口を出してしまったり、親の意見を押し付けたりすることがあるなと反省。子どもは親が思っている以上に自分で考えて行動し、成功と失敗を繰り返すことで成長するそうです。一人の人間として尊重し、見守っていくことが大切だと実感しました。（由）